

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 12月 8日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4270202460
法人名	医療法人社団 平世会
事業所名	グループホーム ひろた
所在地	〒859-3223 長崎県佐世保市広田町1丁目4番7号 (電話)0956-27-5711

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成19年11月29日	評価確定日	平成20年2月18日

【情報提供票より】(平成19年11月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 1月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	13 人, 非常勤 1人, 常勤換算 13.6 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨耐火 造り		
	3 階建ての	2 階 ~	3 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷 金	有( 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要( 11月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	5 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低	76 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐世保中央病院・くりや内科医院・ななくま歯科医院・村上医院
---------	-------------------------------


## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医(傍らには村上医院 健康管理も万全です)、食(和気合あいと料理を作って舌鼓)、住(ゆとりの住まいで楽しい生活)を3本柱に、地域に根ざした福祉を目指し、職員、経営者が一丸となった取り組みで、前進されているグループホームである。年頭に職員が、それぞれの目標を掲げ、ホームの年間目標と融合させながら、日々の業務を入居者と共に織り上げられている。又、かかわる人全てと共に【感謝】の気持ちを忘れないよう、【感謝】の心を大切に育てる方針が、職員の安定につながり入居者の安心・安全に反映されている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題は、事故報告書の記載内容の不備である。報告書の徹底した見直しと改善検討の取り組みで、経過、対応、対策など報告内容が、詳細に把握されやすく、課題や再発防止の方向性などに反映されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価と年間目標をリンクした活用をされており、3年目の今年は【自立】であった。評価は、職員の安定と業務全般にゆとりが生じ、ホーム全体を通して、全員が向上を実感されている。来年の目標が【変化】であることを、訪問当日、管理者が話され、意欲を示された。キーワードは、馴れが固定観念になっていないか、職員の都合になっていないかである。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議を通して、事業所と地域との双方向の交流促進に繋がっている。会議メンバーからは、【ボランティア育成の場になればよい】、【誰もが気軽に足を運べるようなグループホームを目指したらどうか】など、接点のある貴重なアドバイスを頂かれている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族と職員との、コミュニケーションを通じた信頼関係を大事にされており、要望、気づきなどを直接伝えてもらえることもある。お伺いした内容は、業務日誌に記録して、全職員の情報の共有と運営に反映されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	エコ活動や地区の中学生の体験学習の受け入れ、老人福祉センターでの演芸会観覧、病院受診時の待合室での語らいなど、地域との【ふれあい】を大切にしたい取り組みをされている。訪問日の対話の締めくりに、更に全職員が関わり、行動することで見聞を広め地域に溶け込んで行くことを、職員から積極的に告げられた。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	医療法人が母体なので、開設当初から地域と医療の継続した関係を目指されており、ホームの理念は「感謝の心を忘れずに やさしい手 確かな手で 共に歩みます」である。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	これまでの入居者の生活の拠点を、グループホームから【地域】をキーワードに、関係作りの輪を上げられている。職員にもゆとりが生じ、ホーム内に向けられていた職員の目線が、地域を意識した目線へと変わり、地域に密着したサービスの提供にも取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	エコ活動や地区の中学生の体験学習の受け入れ、老人福祉センターでの演芸会観覧、病院受診時の待合室での語らいなど、地域の方とのふれあいを大切にしたり取り組まれている。対話の締めくりに、更に(全職員が関わり、行動することで見聞を広め、地域に入り込んで行く)ことを職員から積極的に告げられた。		今後、職員の更なる取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価と年間目標をリンクした活用をされており、3年目の今年は自立であった。評価は、職員の安定と業務全般にゆとりが生じ、ホーム全体を通して、全員が向上を実感されている。来年の目標が【変化】であることを、訪問当日、管理者が話され意欲を示された。キーワードは、馴れが固定観念になっていないか、職員の都合になっていないかである。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通して、事業所と地域との双方向の交流促進に繋がっている。会議メンバーからは、ボランティア育成の場になればよい、誰もが気軽に足を運べるようなグループホームを目指したらどうかなど、接点のある貴重なアドバイスも頂かれている。		

グループホーム ひろた

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が窓口となって、事業所として最大限の範囲で市との連携・協力を図られている。最近の例では、グループホーム協議会組織行動ではあるが、湯水対策に対する事業所への配慮の相談・申請を個別行動から、集団行動へと移行した取り組みに繋がられている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	法人誌から独立した月刊《こもれび通信》の発行で、家族にも身近な情報の提供となっている。家族からの手紙に、入居者と一緒に返事を書くなど、状況に応じた報告の対応もされている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族と職員とのコミュニケーションを通じた信頼関係も大事にされており、要望・気づきなど直接伝えてもらえることもある。お伺いした内容は、業務日誌に記録して全職員の情報の共有と運営に反映されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	これまでは、馴染みの関係の観点から職員の異動はされていない。行事などを通じたユニット間の交流と職員の安定・定着を踏まえて、相互を学ぶ意味でユニット間の体験異動の検討をされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が役割を持って内部研修・会議や外部研修に参加され、報告書の作成・回覧と口頭での伝達で全職員が情報の共有を図られている。又、法人内施設からの情報も回覧されるので、多岐に亘る情報を得られる体制である。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流のある事業所を訪問・見学して相手に学ぶことも多いが、自らの業務と照合しての気づきで良いところは更に伸ばすように、悪いところは、見直し・改善に繋がる取り組みでサービスの向上に反映されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居者が、地域との継続した関係作りのリズムを崩さないよう、配慮した対応をされており、本人の意思を最優先にじっくり時間をかけて、サービスの提供へと繋がられている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の言動も、観察を通して支えられており、声かけや誘導も本人を尊重したスロー介護の支援をされている。廊下で立ち止まられている入居者に、前方より静かに歩み寄り声かけしながら、両手で優しく肩を抱き、入居者と言葉を交わしてから、誘導されていた。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ケア会議と連動して、アセスメント作成の取り組みもされている。又、日常生活の中の入居者とのかかわりの中での言動を、記録や写真に残され、思いや意向のきっかけ作りに活かされている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>担当者記載の、サービス検証シート(現状リスト)の具体的対策は、カンファレンスなどで全職員の承認を得、アセスメントシートやケアプランチェック表、モニタリングシートとリンクした形で、個別具体的な介護計画に反映されている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>サービス検証シートを業務日誌にもファイルしており、入居者の現状に即した、介護計画の見直しの見極めにもなっている。</p>		

グループホーム ひろた

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かした、早期退院の支援や医療処置を受けながらの生活支援など、入居者・家族の要望も取り入れながら取り組みされている。地域に対しては、法人内施設と協働して介護教室の開催などもされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の主治医と、かかりつけ医との双方の情報提供書の作成もされており、ホーム職員や家族へも情報は伝えられている。又、家族が同行受診されたときは、家族から口頭で職員に報告されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制を活かして、ターミナルケアも想定した体制作りはされている。又、安心して終末を迎えることができることをターミナルケアの理想とされており、本人・家族の安心に繋がるケアのあり方を目指されている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりとのかかわりを大事に対応されており、その時、その瞬間に応じた目線の声かけで、入居者との意思の疎通を図られ、入居者の尊厳を大事にされている。又、入居者に関する記録物などの個人情報の取り扱いは慎重にされ、職員詰め所の特定の場所に保管・管理されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの日常生活の流れの中に、入居者一人ひとりの生活パターンを取り入れ、集団性と個別性を融合させたサービスの提供をされている。訪問した日もデイサービスに出かけられた入居者がおり、夕方戻られていた。		

グループホーム ひろた

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おでんやすき焼きなど、酒のつまみになる献立の時は、夕食にビールやジュースが付いており、好物の人の楽しみに繋がられている。食生活は入居者の経験や能力に応じた関わり方の支援で、本人の意欲や達成感、自信の回復などに反映されている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、決められた時間帯に沸かされており、その中に入居者の希望を可能な限り取り入れ、許容範囲内での支援が、本人の満足に繋がるよう努められている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	老人福祉センター(いでゆ荘)での演芸観覧を、毎月の行事の中に取り入れており、在宅高齢者などの集いの場へ出向くことで、自分を取り戻したり、共感したりと社会性の回復の取り組みもされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出の機会の少ない人でも、病院受診などを利用して、外部者との接触などで士気への働きかけを行っている。又、エレベーター横の談話室からの窓越しの眺望は、居ながらにして街の躍動感を味わうことができるなど、きっかけ作りの支援もされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアの取り組みをされており、外出の傾向を把握されたときは、声かけ誘導で、本人の状態を把握され、必要時は、見守り同行などの対応もされている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所として火災や地震、水害など災害対策についての個々の取り決めは文書化され、ファイルされていたが、火災時災害対策の取り組みが主流で、自然災害に対する取り組みが不足である。		災害時のガイドラインに沿った取り組みなどで、事業所独自の生活備品の備蓄や持ち出し品リストなど、ライフラインの確保と安心・安全に繋がる連絡機関の確認など、具体的取り決めが望まれる。

グループホーム ひろた

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内施設の管理栄養士・医師の指導や助言を下に、入居者一人ひとりに適応した食事の提供で、健康管理にも努められている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的にゆったりとした共用空間には、開放感があり、空気のよどみは感じられない。五感への刺激も、設備の配置や調度品で工夫されている。又、人の気配を感じながら、集いや独り居が選べる環境でもある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	見せていただいた居室は、それぞれに個性があり、持ち込み品からも入居者の拘り・趣味、性格などが窺え、ベッド周りの収納や配置からも、人間性が伝わってくる。		